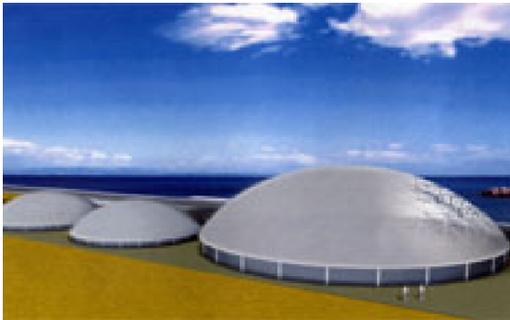


新観光スポット・沖縄マグロ回遊館 ラボタ JIFASが業務提携



ラボタとは

Land-Based Organic Tuna Aquaculture 陸上で有機マグロを作る水産事業の意味。

事業の目的

絶滅危惧種のクロマグロは捕獲が制限され、また密漁などの影響もあり漁獲高が減少しています。クロマグロ(本マグロ)を陸上で安定的に生産することを目的とします。さらに数年後は卵から稚魚を生産し、陸上でのクロマグロ有機生産を目指します。

観光資源として泳ぐマグロを活用!

入場料、えさの販売、レストラン、土産物などの収入で電気代、餌代、人件費などを補います。

マグロ生産に要する費用はすべて観光収入で補うことができるのでマグロの売り上げが全て利益になります。事業のリスクを軽減することができます。

ゼロエミッション事業

汚れた海水を海に流すことなくろ過、浄化して再利用します。取り除いた汚れはバクテリアの力で発酵処理後、肥料にします。汚水は浄化して基準値以内の水質にして地下へ浸透します。陸上養殖事業は海を汚すことのない環境に配慮した事業です。

省エネシステムで電気代は1/10に

海水を下から上に移動させるポンプは大量のエネルギーを消費します。海水を左右に動かすことでエネルギーを1/10にすることができます。ポンプであれば750Wで約200リットルをくみ上げますが75Wの特殊なスクリューで同量の200リットルを移動することができます。この循環システムは国際特許出願中です。

特許取得

飼育水槽は特許が取得されています。稚魚、中間魚、成魚と三層の各ドーナツ水槽に水流を作るとマグロは一定方向へ泳ぎ壁への激突を防止することができます。